

授業計画(シラバス)

科目名		倫理学			指導担当者名		稲川 暁大	
実務経験		医療機関での救急救命士としての業務					EMT経験：	有
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科1年		
授業方法		講義：○		演習：		実習：		実技：
単位数		2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標		医療現場における倫理的課題に気付く力を養い、その課題を分析し解決方法を検討、解決に必要な対話力をグループワーク等を通し身につける。						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験（70%）、出席・授業態度（30%）、とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）						
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法		標準テキストを使用した座学、症例問題を使用してのグループワーク						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	倫理とは			テキストに準拠			
	2	人間と人間生活			テキストに準拠（p4-5）			
	3	人間と人間生活			テキストに準拠（p6-7）			
	4	科学的思考の基礎			テキストに準拠（p8-9）			
	5	科学的思考の基礎			テキストに準拠（p10-11）			
	6	生命倫理と医の倫理			テキストに準拠（p12-14）			
	7	生命倫理と医の倫理			テキストに準拠（p12-14）			
	8	傷病者の権利を護る立場から			テキストに準拠（p14-17）			
	9	死と医療			テキストに準拠			
	10	まとめ			まとめ			
	11	事例分析			グループワーク、ディベート			
	12	事例分析			グループワーク、ディベート			
	13	事例分析			グループワーク、ディベート			
	14	事例分析			グループワーク、ディベート			
	15	まとめ			事例分析の振り返り			
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。								

授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション学				指導担当者名	前田 芳之	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	接遇とコミュニケーションについて理解し、救急現場での対応及び人間関係の円滑化を身に付ける。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	救急現場活動シリーズ3:コミュニケーションと問診、救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習等、オリジナルプリントを使用した作文・論文・履歴書指導						
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	救急現場活動でのコミュニケーションの目的		テキストに準拠			
	2	接遇とコミュニケーション		テキストに準拠			
	3	コミュニケーションの種類		テキストに準拠			
	4	問診の仕方		テキストに準拠			
	5	質問の方法		テキストに準拠			
	6	通信指令員のコミュニケーション		テキストに準拠			
	7	傷病者とのコミュニケーション		テキストに準拠			
	8	傷病者とのコミュニケーション		テキストに準拠			
	9	関係者とのコミュニケーション		テキストに準拠			
	10	隊員間のコミュニケーション		テキストに準拠			
	11	搬送中のコミュニケーション		テキストに準拠			
	12	医師とのコミュニケーション		テキストに準拠			
	13	救急現場コミュニケーションの実践		テキストに準拠			
	14	救急現場コミュニケーションの実践		テキストに準拠			
	15	まとめ					
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	情報処理				指導担当者名	古川 美恵子	
実務経験	日本語文書処理技能検定1級					実務経験:	無
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	正しいビジネス文書の作成 サーティファイWord文書処理技能認定試験3級合格						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、課題提出、小テスト及び授業への取り組み姿勢等を100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	クイックマスターWord2021(ウイネット)・文書処理技能認定試験3級問題集(サーティファイ)						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	タッチタイピング練習			タッチタイピングの理解、タイピングソフトの活用		
	2	Wordの基本操作、文字入力			画面構成、名称等の理解		
	3	文書の編集			文書の書式設定、さまざまな編集機能の理解		
	4	様々な機能			メリハリのある文書作成の実践		
	5	ビジネス文書の成り立ち			ルールに則った形式の理解		
	6	新規文書作成			新規ビジネス文書の作成		
	7	表作成と編集①			罫線と文字入力の理解		
	8	表作成と編集②			効率のよい表作成の理解		
	9	図形の作成と編集			画像の挿入等の理解		
	10	文書処理技能認定試験3級問題集			文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践		
	11	文書処理技能認定試験3級問題集			文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践		
	12	文書処理技能認定試験3級問題集			文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践		
	13	文書処理技能認定試験3級問題集			文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践		
	14	文書処理技能認定試験3級問題集			文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践		
	15	文書処理技能認定試験3級問題集			文書作成技能とビジネス実務への展開能力の実践		
履修上の留意点 ・タッチタイピングの習得 ・実務における正しいビジネス文書の作成 ・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	資料読解				指導担当者名	阿部 純也	
実務経験	経済学士・高等学校教諭免許社会科					実務経験:	無
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科2年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	受講者はこの授業を履修することにより、新聞などの活字メディアやそのグラフ・統計を読みとり、分析、作図させる力を習得する。そして事務的な分析能力の向上により、資料解釈による効果的な知識吸収・理解を目指す。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(80%)、出席・授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	オープンセサミシリーズ5(一般知能)						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	数表:実数・割合			講義:基本問題		
	2	数表:指数・構成比			講義:基本問題		
	3	数表:増減率			講義:基本問題		
	4	グラフ:実数・割合			講義:基本問題		
	5	グラフ:指数・構成比			講義:基本問題		
	6	グラフ:増減率			講義:基本問題		
	7	問題演習			総合問題演習		
	8	数表:実数・割合			講義:発展・応用		
	9	数表:指数・構成比			講義:発展・応用		
	10	数表:増減率			講義:発展・応用		
	11	グラフ:実数・割合			講義:発展・応用		
	12	グラフ:指数・構成比			講義:発展・応用		
	13	グラフ:増減率			講義:発展・応用		
	14	問題演習			総合問題演習		
	15	問題演習			総合問題演習		
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	人体の構造と機能 I				指導担当者名	稲川 暁大	
実務経験	医療機関での救急救命士としての業務					EMT経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	救急現場においては傷病者の病態を的確に判断する必要がある。その土台となる基礎知識として、人体構造を解剖学で人体機能を生理学で体系的に学ぶ。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	からだの地図帳、病気の地図帳、救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	ヒトの身体の仕組み			ヒトの身体の仕組み		
	2	人体を構成する要素			人体の作りとその役割		
	3	人体を構成する要素			体液		
	4	体表から見る人体の構造			人体の位置・方向・運動、体表からみた構造と名称、解剖学的指標		
	5	体表から見る人体の構造			身体部位の役割、体腔内臓器の体表からの位置関係		
	6	神経系			神経系の構成と役割、中枢・末梢神経系、伝導路、自律神経		
	7	神経系			脳循環、意識、反射		
	8	感覚系			感覚系の構成と役割		
	9	呼吸系			呼吸系の構成と役割、気道、胸郭		
	10	呼吸系			肺、肺胞でのガス交換		
	11	呼吸系			血液での酸素の働き		
	12	呼吸系/循環系			呼吸の調整/循環系の構成と役割		
	13	循環系			心臓		
	14	循環系			脈管		
	15	循環系			循環の制御		
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	人体の構造と機能Ⅱ				指導担当者名	稲川 暁大	
実務経験	医療機関での救急救命士としての業務					EMT経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	救急現場においては傷病者の病態を的確に判断する必要がある。その土台となる基礎知識として、人体構造を解剖学で人体機能を生理学で体系的に学ぶ。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	からだの地図帳、病気の地図帳、救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	消化系		消化器、口腔・咽頭			
	2	消化系		消化管、肝臓・胆道系			
	3	消化系		膵臓、腹膜・腹腔			
	4	泌尿系		泌尿系の構造、腎臓、尿路、			
	5	生殖系		生殖系の構造と役割			
	6	内分泌系		内分泌、内分泌器官			
	7	血液・免疫系		血液、血球、血漿			
	8	血液・免疫系		骨髄の構造と機能、脾臓			
	9	血液・免疫系		止血と凝固、免疫			
	10	筋・骨格系		四肢の主な骨格筋、骨・関節、靱帯・腱			
	11	筋・骨格系		脊柱の構造			
	12	皮膚系		皮膚の構造、役割			
	13	生命の維持		栄養と代謝			
	14	生命の維持		恒常性維持			
	15	まとめ					
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	疾患の成り立ち				指導担当者名	今田 剛	
実務経験	医師					EMT経験:	無
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間		
学習到達目標	疾患の学習に必要な基本的病変、主要疾患の原因や発生機序を理解する。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版、病気の地図帳、からだの地図帳、系統看護 病理学						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	疾患		疾患の原因			
	2	疾患		疾患の発症と経過、回復・予防			
	3	細胞障害		細胞障害と原因、変化			
	4	炎症		炎症の原因、経過			
	5	感染		感染と感染症			
	6	感染		病原体と病原性、病原体となる微生物			
	7	循環障害		虚血と梗塞、うっ血、凝固			
	8	循環障害		出血、血液凝固			
	9	腫瘍		腫瘍の分類、発生			
	10	腫瘍		悪性腫瘍			
	11	損傷と治癒		損傷と治癒			
	12	死		死の概念			
	13	死		死体現象			
	14	死		死に関わる手続きと検査、死体の尊厳			
	15	まとめ					
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	健康と社会保障				指導担当者名	稲川 暁大	
実務経験	医療機関での救急救命士としての業務					EMT経験:	有
開講時期	後期			対象学科学年		救急救命士科2年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	・保健医療制度の仕組みと現状を知り、医療系専門職としての見識を広げる。 ・社会保障と社会福祉を支える制度を知ること医療従事者としての素養を育む。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験結果に授業態度と授業毎のミニテストの結果も加味し、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	救急救命士標準テキストを使用した予復習						
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	1	健康と社会保障とは		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	2	健康と公衆衛生		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	3	健康と公衆衛生		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	4	医療を取り巻く環境		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	5	医療を取り巻く環境		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	6	医療供給体制		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	7	医療供給体制		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	8	さまざまな保健衛生		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	9	さまざまな保健衛生		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	10	社会保障とその仕組み		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	11	社会保障とその仕組み		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	12	社会保険		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	13	社会保険		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	14	社会福祉と公的扶助		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	15	社会福祉と公的扶助		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	救急医学概論Ⅰ				指導担当者名	高橋 利行	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間		
学習到達目標	・観察の重要性を理解し,系統立てた観察項目について理解する。 ・観察用資機材の構造と使用方法について理解する。 ・全身状態から局所状態の観察について列挙し所見について理解する。 ・傷病者等との良好な関係構築方法と問診内容について理解する。 ・緊急度・重症度判断を理解できる。 ・傷病者の状態に応じた応急処置等を理解する。 ・傷病者の状態に応じた救命処置等を理解する。						
評価方法 評価基準	学習評価は、20点満点の試験を5回行い、その合計得点にて行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習 の方法	テキストを使用した予復習及び問題演習						
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	観察総論①		観察の目的と意義、バイタルサイン		P296	
		観察総論②		観察の方法		P297～300	
	2	全身状態の観察①		外見の観察		P301～P302	
		全身状態の観察②		気道・呼吸・循環に関する観察		P302～P307	
	3	全身状態の観察③		意識状態に関する観察(JCS/GCS)		P307～P308	
		局所の観察①		観察結果の表現皮膚・頭部・顔面・頸部		P309～P313	
	4	局所の観察②		胸部・背部・腹部		P313～P316	
		局所の観察③		鼠径部～骨盤・四肢・手指・各種病態AR		P317～P319	
	5	神経所見の観察		運動機能～髄膜刺激症状・神経学的異常		P320～P329	
		緊急度・重症度判断		緊急度と重症度・判断の基準		P330～P334	
	6	資器材による観察①		パルスオキシメーター～血圧計		P335～P340	
		資器材による観察②		心電図モニター～血糖測定器		P340～P346	
	7	効果測定A		観察・現場活動・緊急度判断・資器材			
		救急救命士が行う処置①		気道確保・気道異物除去・口腔内吸引		P347～P353	
	8	救急救命士が行う処置②		声門上気道デバイス		P354～P358	
	救急救命士が行う処置③		気管挿管		P358～367		
履修上の留意点							
1. 自ら学ぶ意識を醸成する。 2. 傷病者の観察、判断、処置が傷病者の命を左右することを重大さを意識づける。 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。なお、対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名		救急医学概論Ⅰ			指導担当者名		高橋 利行	
実務経験		消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験:	有
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科1年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間		
学習到達目標		・観察の重要性を理解し,系統立てた観察項目について理解する。 ・観察用資機材の構造と使用方法について理解する。 ・全身状態から局所状態の観察について列挙し所見について理解する。 ・傷病者等との良好な関係構築方法と問診内容について理解する。 ・緊急度・重症度判断を理解できる。 ・傷病者の状態に応じた応急処置等を理解する。 ・傷病者の状態に応じた救命処置等を理解する。						
評価方法 評価基準		学習評価は、20点満点の試験を5回行い、その合計得点にて行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習 の方法		テキストを使用した予復習及び問題演習						
学期	ターム	項目			内容・準備資料等			
授業計画 前期	9	救急救命士が行う処置④			気管吸引、酸素投与 P367～P371			
		効果測定B			声門上気道デバイス、気管挿管			
	10	救急救命士が行う処置⑤			静脈路確保と輸液 P383～P389			
		救急救命士が行う処置⑥			アドレナリン投与・ブドウ糖投与 P389～P395			
	11	効果測定C			静脈路確保と輸液・薬剤投与			
		体位管理			体位管理・体温管理 P395～P399			
	12	外傷処置			止血・創傷処置・固定 P399～P414			
		心肺蘇生法			人工呼吸、胸骨圧迫、除細動器 P418～P419			
	13	救急蘇生法			〃 心肺蘇生のプロトコール P419～P427			
		効果測定			体位管理・外傷処置・心肺(救急)蘇生			
	14	産婦人科領域の処置			産婦人科領域の処置 P414～P417			
		在宅療法継続中の傷病者の処置			在宅医療(療養)とは・在宅療法への対応 P428～P433			
	15	傷病者搬送法			搬送総論～事故車両からの救出方法 P435～P452			
		効果測定D			心肺蘇生・傷病者搬送			
		テスト			定期試験			
履修上の留意点								
1. 傷病者の観察、判断、処置が傷病者の予後について左右すること,重大さを意識づける。 2. 国家試験問題と関連づけた理解を導く。 3. 現場実践技術に効果ある知識の習得のためシミュレーションや資器材取り扱いと連携した教育の実施 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。なお、対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。								

授業計画(シラバス)

科目名	救急医学概論Ⅱ				指導担当者名	前田 芳之	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	・我が国の救急医療体制について理解する。 ・市民の行う一次救命処置の普及啓発活動の重要性を理解する。 ・メディカルコントロールの下で行う消防機関の救急活動について理解する。 ・災害医療体制について理解する。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験と授業態度、小テストを総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)						
使用教材	標準多数傷病者対応MCLSテキスト、救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習						
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	救急医療体制		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	2	救急医療体制		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	3	災害医療体制		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	4	災害医療体制		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	5	病院前医療体制		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	6	消防機関における救急活動の流れ		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	7	消防機関における救急活動の流れ		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	8	救急活動時のコミュニケーション		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	9	救急活動時のコミュニケーション		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	10	救急救命士に関連する法令		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	11	救急救命士に関連する法令		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	12	救急救命士の生涯教育		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	13	安全管理と事故対応		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	14	感染対策		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	15	ストレスに対するマネジメント		救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
履修上の留意点							
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	救急症候・病態生理Ⅰ				指導担当者名	岸田 全人	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験:	有
開講時期	後期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	8時間		
学習到達目標	救急救命士が遭遇しうる疾患の症状等を理解する事で、それぞれの疾患に対する観察、判断また応急処置を実践できる知識を身に付ける。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	1	呼吸不全		総論、低酸素血症の発症機序			
	2	呼吸不全		高二酸化炭素血症の発症機序、換気障害			
	3	心不全		総論、病態生理、症候、種類			
	4	ショック		総論、循環血液量減少性ショック			
	5	ショック		心原性ショック、血液分布異常性ショック			
	6	重症脳障害		総論、発生機序、一次性能病変と二次性脳病変			
	7	重症脳障害		頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア			
	8	心肺停止		総論、心肺停止に至る病態と原因、心電図分類、心肺蘇生中の循環、心拍再開後の病態			
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	救急症候・病態生理Ⅱ				指導担当者名	岸田 全人	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験:	有
開講時期	後期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	8時間		
学習到達目標	救急救命士が遭遇しうる疾患の症状等を理解する事で、それぞれの疾患に対する観察、判断また応急処置を実践できる知識を身に付ける。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画後期	1	意識障害/頭痛		標準テキストP.488～496			
	2	痙攣/運動麻痺		標準テキストP.497～506			
	3	めまい/呼吸困難		標準テキストP.507～515			
	4	喀血/一過性意識消失と失神		標準テキストP.516～521			
	5	胸痛/動悸		標準テキストP.522～528			
	6	腹痛/吐血・下血		標準テキストP.529～536			
	7	腰痛・背部痛/体温上昇		標準テキストP.537～544			
	8	まとめ					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	疾病救急医学Ⅰ				指導担当者名	今田 剛	
実務経験	医療機関での医師業務従事					EMT経験:	無
開講時期	後期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間		
学習到達目標	救急救命士の現場活動に必要な各種疾患を理解する。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	1	脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血		テキストに準拠			
	2	脳動脈瘤、くも膜下出血、脳動静脈奇形、もやもや病、髄膜炎		テキストに準拠			
	3	ギランバレー症候群、てんかん、脳腫瘍、変性疾患		テキストに準拠			
	4	呼吸不全、COPD、CO2ナルコーシス、気管支喘息		テキストに準拠			
	5	無気肺、気管支拡張症、肺炎		テキストに準拠			
	6	急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍		テキストに準拠			
	7	肺結核、急性上気道炎、胸膜炎		テキストに準拠			
	8	気胸、肺血栓塞栓症、過換気症候群、肺癌		テキストに準拠			
	9	間質性肺炎、ARDS		テキストに準拠			
	10	動脈硬化症、うっ血性心不全		テキストに準拠			
	11	急性冠不全症候群、急性心筋梗塞		テキストに準拠			
	12	不安定狭心症、安定狭心症、心筋症、心タンポナーデ		テキストに準拠			
	13	心室細動、心室頻拍、心房細動		テキストに準拠			
	14	洞房ブロック、WPW症候群、洞不全症候群		テキストに準拠			
	15	心臓弁膜症、感染性心内膜炎、先天性心疾患		テキストに準拠			
履修上の留意点 ・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	疾病救急医学Ⅱ				指導担当者名	今田 剛	
実務経験	医療機関での医師業務従事					EMT経験:	無
開講時期	後期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間		
学習到達目標	救急救命士の活動に必要な疾患が理解できる						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	1	消化系疾患		テキストに準拠			
	2	消化系疾患		テキストに準拠			
	3	泌尿・生殖系疾患		テキストに準拠			
	4	代謝・内分泌・栄養系疾患		テキストに準拠			
	5	代謝・内分泌・栄養系疾患		テキストに準拠			
	6	血液・免疫系疾患		テキストに準拠			
	7	筋肉・骨格系疾患		テキストに準拠			
	8	皮膚系疾患		テキストに準拠			
	9	眼・耳・鼻の疾患		テキストに準拠			
	10	眼・耳・鼻の疾患		テキストに準拠			
	11	感染症		テキストに準拠			
	12	小児に特有な疾患		テキストに準拠			
	13	高齢者に特有な疾患		テキストに準拠			
	14	妊娠・分娩と救急疾患		テキストに準拠			
	15	精神障害		テキストに準拠			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	外傷救急医学Ⅰ				指導担当者名	高橋 利行	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験:	有
開講時期	後期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	外傷は外力発生の種類、受傷機転、損傷の形態、損傷の部位などさまざまな分類があり、外傷学特有の診断、治療が必要である。外傷における救急救命士の役割は大きいため熟知する。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版・からだの地図帳						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	1	疫学と外傷システム		標準テキストに準拠	P.688～690		
	2	受傷機転		標準テキストに準拠	P.691～697		
	3	受傷機転		標準テキストに準拠	P.697～700		
	4	外傷の病態生理		標準テキストに準拠	P.701～705		
	5	外傷の現場活動(状況評価)		標準テキストに準拠	P.706～707		
	6	外傷の現場活動(傷病者の評価)		標準テキストに準拠	P.707～709		
	7	外傷の現場活動(緊急度・重症度等)		標準テキストに準拠	P.709～711		
	8	頭部外傷		標準テキストに準拠	P.712～715		
	9	頭部外傷		標準テキストに準拠	P.715～717		
	10	頭部外傷		標準テキストに準拠	P.717～718		
	11	顔面・頸部外傷		標準テキストに準拠	P.719～720		
	12	顔面・頸部外傷		標準テキストに準拠	P.721～723		
	13	脊椎・脊髄外傷		標準テキストに準拠	P.724～725		
	14	脊椎・脊髄外傷		標準テキストに準拠	P.726～727		
	15	脊椎・脊髄外傷		標準テキストに準拠	P.728～729		
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	外傷救急医学Ⅱ				指導担当者名	高橋 利行	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	外傷は外力発生の種類、受傷機転、損傷の形態、損傷の部位などさまざまな分類があり、外傷学特有の診断、治療が必要である。外傷における救急救命士の役割は大きいため熟知する。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	胸部外傷		標準テキストに準拠	P.730～731		
	2	胸部外傷		標準テキストに準拠	P.732～733		
	3	胸部外傷		標準テキストに準拠	P.734～735		
	4	腹部外傷		標準テキストに準拠	P.736～739		
	5	骨盤外傷		標準テキストに準拠	P.740～741		
	6	骨盤外傷		標準テキストに準拠	P.742～743		
	7	四肢外傷		標準テキストに準拠	P.744～751		
	8	小児・高齢者・妊婦の外傷		標準テキストに準拠	P.752～754		
	9	小児・高齢者・妊婦の外傷		標準テキストに準拠	P.755～756		
	10	熱傷		標準テキストに準拠	P.757～762		
	11	化学損傷		標準テキストに準拠	P.763～768		
	12	電撃傷・雷撃傷		標準テキストに準拠	P.769～774		
	13	縊頸・絞頸		標準テキストに準拠	P.775～777		
	14	刺咬症(傷)		標準テキストに準拠	P.778～782		
	15	まとめ					
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名		環境障害・急性中毒			指導担当者名		前田 芳之	
実務経験		消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験：	有
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科1年		
授業方法		講義：○		演習：		実習：		実技：
単位数		2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標		環境障害・急性中毒などの外部因子で発生する救急疾患・症候について理解できる						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験にて100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習 の方法		テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項目			内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	中毒総論			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	2	中毒総論			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	3	中毒各論			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	4	中毒各論			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	5	異物			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	6	溺水			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	7	熱中症			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	8	熱中症			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	9	偶発性低体温			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	10	偶発性低体温			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	11	放射線障害			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	12	放射線障害			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	13	その他の環境障害			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	14	その他の環境障害			救急標準テキスト(改訂第11版)に準拠			
	15	まとめ			まとめ			
履修上の留意点								
・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。								

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーションⅠ				指導担当者名	専任教員	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験:	有
開講時期	通年			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:		演習:		実習:○		実技:○
単位数	10単位	総時間数	450時間	週時間数	16時間		
学習到達目標	1五感と観察用資器材を活用し傷病者を的確に観察できる。 2救命処置の適応者を判断し安全に適切な処置が行える技術を身につける。 3傷病者の症状に適した体位管理と搬送ができる。 ・BLS(市民向け、医療従事者向け)の習得。 ・隊活動における一連の流れを習得する事ができる。 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける事ができる。						
評価方法 評価基準	学習評価は、以下の单元ごとに20点満点の試験、授業終了後のシミュレーション試験を行い、その合計得点にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格) ※单元…1 初期評価と心肺蘇生 2声門上気道デバイスによる気道確保 3気管挿管 4 静脈確保とアドレナリン投与 5血糖測定と、ブドウ糖投与						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版、救急観察処置スキルマニュアル						
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習						
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画 通年（前期）	1	五感を活用した観察		バイタルサイン、全身観察			
	2	資器材を活用した観察		聴診器、体温計、血圧計等			
	3	資器材を活用した観察		ECG、カプノメーター			
	4	気道確保、人工呼吸		用手気道確保、BVMによる人工呼吸			
	5	外傷処置		三角巾、副子等			
	6	体位管理、搬送法		ストレッチャー、バックボード			
	7	酸素、AED、BVM		酸素、AED			
	8	気道確保、異物除去		用手、エアウェイ、喉頭鏡			
	9	搬送法		緊急救出(毛布、スクープ等)			
	10	産婦人科領域の処置		分娩介助等			
	11	在宅療法継続中傷病者処置		在宅傷病者の療法別対応			
	12	産婦人科領域の処置		分娩介助等			
	13	効果測定		観察要領、体位管理、搬送法			
	14	心肺蘇生		BVM、AED、シミュレーター			
	15	心肺蘇生		BVM、AED、シミュレーター			
履修上の留意点 1シミュレーションをより効率的に進めるため、学生は積極的に参加し行動すること。 2使用救急資器材の配置場所の把握と愛護的な取り扱いを徹底すること。 3シミュレーション開始前に体操を行うこと。 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。							

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーションⅠ				指導担当者名	専任教員	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験:	有
開講時期	通年			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:		演習:		実習:○		実技:○
単位数	10単位	総時間数	450時間	週時間数	14時間		
学習到達目標	1五感と観察用資器材を活用し傷病者を的確に観察できる。 2救命処置の適応者を判断し安全に適切な処置が行える技術を身につける。 3傷病者の症状に適した体位管理と搬送ができる。 ・BLS(市民向け、医療従事者向け)の習得。 ・隊活動における一連の流れを習得する事ができる。 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける事ができる。						
評価方法 評価基準	学習評価は、以下の单元ごとに20点満点の試験、授業終了後のシミュレーション試験を行い、その合計得点にて行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格) ※单元…1初期評価と心肺蘇生 2声門上気道デバイスによる気道確保 3気管挿管 4静脈確保とアドレナリン投与 5血糖測定と、ブドウ糖投与						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版、救急観察処置スキルマニュアル						
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習						
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画 通年（後期）	16	声門上気道デバイス		i-gel、コンビチューブ、LT、LM			
	17	声門上気道デバイスを含めた隊活動		適応症例に対する想定訓練			
	18	効果測定		声門上デバイス			
	19	気管挿管		気管内チューブ、スタイレット			
	20	気管挿管を含めた隊活動		適応症例に対する想定訓練			
	21	効果測定		気管挿管			
	22	静脈確保		留置針、輸液セット			
	23	静脈確保を含めた隊活動		適応症例に対する想定訓練			
	24	アドレナリン投与		輸液セット、アドレナリン			
	25	アドレナリン投与		輸液セット、アドレナリン			
	26	効果測定		輸液・アドレナリン投与			
	27	血糖測定、ブドウ糖投与		血糖測定器、輸液ライン、ブドウ糖			
	28	血糖測定、ブドウ糖投与を含めた隊活動		適応症例に対する想定訓練			
	29	効果測定		血糖測定とブドウ糖投与			
	30	エピペン		エピペントレーナー			
履修上の留意点 1シミュレーションをより効率的に進めるため、学生は積極的に参加し行動すること。 2使用救急資器材の配置場所の把握と愛護的な取り扱いを徹底すること。 3シミュレーション開始前に体操を行うこと。 ※授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。							

授業計画(シラバス)

科目名	シミュレーションⅡ				指導担当者名	専任教員	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験:	有
開講時期	通年			対象学科学年		救急救命士科2年	
授業方法	講義:		演習:		実習:○		実技:
単位数	10単位	総時間数	450時間	週時間数	10時間		
学習到達目標	1個々の救命処置スキルのさらなる質向上を目指す。 2隊員間の情報共有と役割分担を円滑に行うことができる。 3安全管理を意識した救急活動を行うことができる。 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける。 ・リスクマネジメントを含め、適切な判断ができる。 ・各病態について原因から処置まで説明、実施する事ができる。						
評価方法 評価基準	学習評価は、前期効果測定、後期効果測定を総合して行う。 評価は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版、救急観察処置スキルマニュアル						
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習						
学期	ターム	項目			内容・準備資料等		
授業計画 通年（前期）	1	基本的な救急活動			状況評価から継続観察まで		
	2	疾患対応（異物）			早期異物除去と呼吸管理		
	3	外傷対応（転倒）			転倒原因の把握と適切な処置		
	4	疾患対応（胸痛）			適切な観察と緊急度判断		
	5	外傷対応（交通外傷）			緊急度判断と適切な処置		
	6	外傷対応（墜落・転落）			推定外力と受傷部位の想像力		
	7	疾患対応（意識障害）			観察・問診からの原因疾患の特定		
	8	CPA対応（VF）			早期除細動とアドレナリン投与		
	9	疾患対応（アナフィラキシー）			バイタルサインの把握と輸液		
	10	疾患対応（重症熱傷）			保温・感染防止と輸液		
	11	中毒対応（硫化水素）			安全管理・応援要請と現場保存		
	12	疾患対応（精神科）			傷病者接遇及び警察官との連携		
	13	災害対応（列車事故）			先着隊の行動		
	14	災害対応（交通事故）			応援隊の行動		
	15	前期効果測定			疾患対応		
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名		シミュレーションⅡ			指導担当者名		専任教員	
実務経験		消防機関での救急救命士業務従事					EMT経験：	有
開講時期		通年		対象学科学年		救急救命士科2年		
授業方法		講義：		演習：		実習：○		実技：
単位数		10単位	総時間数	450時間	週時間数	20時間		
学習到達目標		1個々の救命処置スキルのさらなる質向上を目指す。 2隊員間の情報共有と役割分担を円滑に行うことができる。 3安全管理を意識した救急活動を行うことができる。 ・隊長の役割を認識し、包括的な力を身につける。 ・リスクマネジメントを含め、適切な判断ができる。 ・各病態について原因から処置まで説明、実施する事ができる。						
評価方法 評価基準		学習評価は、前期効果測定、後期効果測定を総合して行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・特に高い程度に達成しているもの…A、・高い程度に達成しているもの…B、・おおむね達成しているもの…C ・達成が不十分なもの…D(不合格)						
使用教材		救急救命士標準テキスト改訂第11版、救急観察処置スキルマニュアル						
授業外学習 の方法		テキストを使用した予復習						
学期	ターム	項目			内容・準備資料等			
授業計画 通年 (後期)	16	疾患対応(意識障害・頭痛)			観察・問診・運動機能観察			
	17	疾患対応(痙攣)			問診と観察からの緊急度判断			
	18	疾患対応(めまい)			観察と問診及び医療機関選定			
	19	疾患対応(呼吸困難)			症状の把握と緊急度判断			
	20	外傷対応(交通外傷)			緊急度判断と適切な処置			
	21	外傷(刺創)			バイタルの把握と適切な外傷処置			
	22	CPA対応(溺水)			吐物除去と呼吸管理			
	23	CPA対応(乳児)			呼吸管理と胸骨圧迫			
	24	疾患対応(動悸)			問診と心電図波形の判断力			
	25	疾患対応(意識障害)			意識障害の原因特定と緊急度判断			
	26	中毒対応(胸痛)			胸痛の原因特定と緊急度判断			
	27	疾患対応(腹痛)			腹痛の原因特定と緊急度判断			
	28	外傷対応(失神)			緊急度判断と適切な処置			
	29	外傷対応(腹部外傷)			緊急度判断と適切な処置			
	30	後期効果測定			外傷対応			
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。								

授業計画(シラバス)

科目名	臨床実習				指導担当者名	実習指導者	
実務経験	救急医療従事者(5年以上)					EMT経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科2年	
授業方法	講義:		演習:		実習:○		実技:
単位数	4単位	総時間数	180時間	週時間数	36時間		
学習到達目標	関連知識の応用と、特定行為に係わる技術の見学を主体とし、診療補助に対する理解を深める。						
評価方法 評価基準	学習評価は、実習指導者が実習態度、理解度、総合評価についてそれぞれ4段階で行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・積極的に適切な実習を行い、業務を理解できたもの…A, ・積極性に欠けたが、業務については理解ができたもの…B, ・積極性や業務理解に更に努力を要するもの…C ・実習態度や業務理解に問題があると判断された等、再実習が望まれるもの…D(不合格)						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	レポート作成、教科書を使用した予復習						
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	臨床実習		病院の各部門を見学し、病院の機能について認識を深める。			
	2	臨床実習		医師、看護師等医療スタッフの仕事を理解し、その連携を知る。			
	3	臨床実習		病院における救急患者への対応の仕組みを知る。			
	4	臨床実習		救急室に搬入された救急患者への処置、診断の全体像を理解する。			
	5	臨床実習		ICU(集中治療室)における患者管理を理解する。			
				救急患者、家族に対するいたわりの心を持つ。			
				インフォームドコンセントの重要性を理解する。			
履修上の留意点							
・実習の5分の4以上の出席がない者には、単位を認定しない。							

授業計画(シラバス)

科目名	救急用自動車同乗実習				指導担当者名	実習指導者	
実務経験	消防機関での救急救命士業務従事者					EMT経験:	有
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科2年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:○		実技:
単位数	1単位	総時間数	45時間	週時間数	22.5時間		
学習到達目標	1)消防機関における救急救命士の果たすべき役割を学び、消防職員を目指す学生として使命感及び向上心を獲得する。 2)消防署内での業務及び救急現場活動を見学し、消防業務ならびに救急業務を理解する。 3)救急現場における救急隊員の接遇等を見学し、傷病者及び家族等への対応を習得する。 4)救急隊員が行う傷病者の観察方法ならびに観察結果を見学し、医学的知識及び技術の確認を行うとともに、現場対応能力を養う。						
評価方法 評価基準	学習評価は、実習指導者が実習態度、理解度、総合評価についてそれぞれ4段階で行う。 評定は、学習到達目標や内容に照らし次の4段階とする。 ・積極的に適切な実習を行い、業務を理解できたもの…A, ・積極性に欠けたが、業務については理解ができたもの…B, ・積極性や業務理解に更に努力を要するもの…C ・実習態度や業務理解に問題があると判断された等、再実習が望まれるもの…D(不合格)						
使用教材	救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	レポート作成、教科書を使用した予復習						
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	救急用自動車同乗実習		消防業務全般(火災予防、指導広報、警防、救急、救助等)			
	2	救急用自動車同乗実習		車両見学、消防庁舎見学、通信施設見学、資器材見学			
				救急・救護現場における救急隊員の活動を理解する			
				救急用自動車等の点検整備の重要性や機能及び特性を理解する			
履修上の留意点							
・実習の5分の4以上の出席がない者には、単位を認定しない。							

授業計画(シラバス)

科目名		一般知能			指導担当者名		岡崎 史紹	
実務経験		学士(教育)					EMT経験:	無
開講時期		前期		対象学科学年		救急救命士科2年		
授業方法		講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数		2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標		・情報処置及び課題解決に必要とされる論理的思考力を身に付ける。						
評価方法 評価基準		学習評価は、定期試験にて100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材		オープンセサミシリーズ5(一般知能)						
授業外学習 の方法		テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目			内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	順序関係			使用テキストに準拠			
	2	対応関係			使用テキストに準拠			
	3	集合			使用テキストに準拠			
	4	論理			使用テキストに準拠			
	5	位置関係			使用テキストに準拠			
	6	試合			使用テキストに準拠			
	7	証言			使用テキストに準拠			
	8	暗号			使用テキストに準拠			
	9	数量			使用テキストに準拠			
	10	日暦算			使用テキストに準拠			
	11	手順			使用テキストに準拠			
	12	道順			使用テキストに準拠			
	13	平面図形			使用テキストに準拠			
	14	立体構成			使用テキストに準拠			
	15	まとめ			まとめ			
	テスト			定期試験				
履修上の留意点								
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。								

授業計画(シラバス)

科目名	教養 I (自然科学)				指導担当者名	阿部 純也	
実務経験	経済学士・高等学校教諭免許社会科					EMT経験:	無
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科2年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	受講者はこの授業を履修することにより、自然科学の理解に必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。 (1)物理: 速さ・力・エネルギーの各種法則とその計算。 (2)化学: 化学式、イオン式、モル計算及び元素の分類と性質。 (3)生物: 人体の構造及び生体の変化。 (4)地学: 天候の変化の成因と気象図から読み取り及び地質。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(80%)、出席・授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	オープンセサミシリーズ4(数学・理科)						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	物理: 速度・落体運動・力のつりあい		速度・落体運動・力のつりあい			
	2	物理: 速度・落体運動・力のつりあい		速度・落体運動・力のつりあい			
	3	物理: 力学エネルギー・熱とエネルギー		力学エネルギー・熱とエネルギー			
	4	物理: 力学エネルギー・熱とエネルギー		力学エネルギー・熱とエネルギー			
	5	化学: 化学結合と結晶		化学結合と結晶			
	6	化学: 気体の性質		気体の性質			
	7	化学: 酸と塩基・中和		酸と塩基・中和			
	8	化学: 酸化と還元・イオン化傾向		酸化と還元・イオン化傾向			
	9	化学: 非金属元素と金属元素		非金属元素と金属元素			
	10	生物: 固体の恒常性と調節		固体の恒常性と調節			
	11	生物: 細胞・酵素		細胞・酵素			
	12	生物: 問題演習		総合問題演習			
	13	地学: 地殻の構成物質		地殻の構成物質			
	14	地学: 気象現象		気象現象			
	15	地学: 問題演習		総合問題演習			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	教養Ⅱ(社会科学)				指導担当者名	阿部 友紀	
実務経験	博士(文学)					EMT経験:	無
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科2年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:		実技:
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	受講者はこの授業を履修することにより、現代社会の成り立ち及び国内の政治の諸制度、国際情勢、経済状況を理解するために必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。 (1)政治:民主政治の形成に至るまでの世界の主要な歴史と制度、わが国の政治諸制度と法制度の発展による現代社会の形成に至る流れ。 (2)経済:近代以降の経済体系の発展から現代にいたるまでの経済の仕組み及び、わが国の経済循環と国際社会との関わり。 (3)時事問題:現代の国内外の諸問題のについて現状把握。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(60%)、出席(20%)、授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	オープンセサミシリーズ1(政治・経済・社会)						
授業外学習の方法	テキストを使用した予復習						
学期	ターム	項目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	政治:民主主義の基本原理と制度		社会契約説・各国の政治制度			
	2	経済:市場経済		経済学の歴史・需要と供給・市場			
	3	政治:日本国憲法に基本原則と基本的人権		大日本帝国憲法と日本国憲法			
	4	経済:市場経済		資本結合・価格・企業形態			
	5	政治:日本国憲法に基本原則と基本的人権		基本的人権			
	6	経済:国民経済の流れ		経済循環・国民所得・景気の変動			
	7	政治:日本国憲法の統治機構		国会・内閣			
	8	経済:国民経済の流れ		金融の仕組と役割			
	9	政治:日本国憲法の統治機構		裁判所・地方自治			
	10	経済:国民経済の流れ		財政の仕組と役割			
	11	政治:政治の諸問題		選挙の原則・選挙区制度・時事			
	12	経済:日本経済の発展		高度経済成長			
	13	政治:国際政治		国際連盟と国際連合主な国際機関			
	14	経済:国際経済		貿易と国際収支・円高と円安			
	15	総合問題演習		総合問題演習			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	教養Ⅲ(総合)			指導担当者名		阿部 純也	
実務経験	経済学士・高等学校教諭免許社会科					EMT経験:	無
開講時期	前期			対象学科学年		救急救命士科2年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間		
学習到達目標	受講者はこの授業を履修することにより、現代社会の成り立ちを理解するために必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。 (1) 歴史: 日本と世界の主要な歴史とそれをもとに現代社会の形成に至る流れ。 (2) 地理: 世界各国の地勢及び地誌を産業や人口的な面などから分析。 (3) 政治経済: 民主政治の展開と現代社会の政治問題、経済問題。 (4) 時事問題: 現代の国内外の諸問題のについて現状把握。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験(80%)、出席・授業態度(20%)とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	オープンセサミシリーズ1(政治・経済・社会)・2(日本史・世界史・地理・思想)						
授業外学習 の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 前期	1	日本史(古代)		古代			
		日本史(中世)		中世			
	2	日本史(近世)		近世			
		日本史(近代)		近代			
	3	日本史(近現代)		近現代			
		問題演習		問題演習			
	4	世界史(古代・中世)		古代・中世			
		世界史(近世)		近世			
	5	世界史(近代ヨーロッパ)		近代ヨーロッパ			
		世界史(中国・アジア史)		中国・アジア史			
	6	世界史(近現代史)		近現代史			
		問題演習		問題演習			
	7	地理(地形・気候)		地形・気候			
		地理(気候・農業)		気候・農業			
	8	地理(農業・工業)		農業・工業			
		地理(各国の地誌)		各国の地誌			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							

授業計画(シラバス)

科目名	教養Ⅲ（総合）		指導担当者名	阿部 純也	
実務経験	経済学士・高等学校教諭免許社会科			EMT経験：	無
開講時期	前期		対象学科学年	救急救命士科2年	
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：	
単位数	4単位		週時間数	2時間	
学習到達目標	受講者はこの授業を履修することにより、現代社会の成り立ちを理解するために必要な基礎的な考え方、知識の習得に努める。具体的には以下の項目となる。 （１）歴史：日本と世界の主要な歴史とそれをもとに現代社会の形成に至る流れ。 （２）地理：世界各国の地勢及び地誌を産業や人口的な面などから分析。 （３）政治経済：民主政治の展開と現代社会の政治問題、経済問題。 （４）時事問題：現代の国内外の諸問題のについて現状把握。				
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験（80％）、出席・授業態度（20％）とし、100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A、・79～70点…B、・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）				
使用教材	オープンセサミシリーズ1(政治・経済・社会)・2(日本史・世界史・地理・思想)				
授業外学習 の方法	テキストを使用した問題演習				
学期	ターム	項 目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	9	地理(日本の地誌・人口問題)	日本の地誌・人口問題		
		問題演習	問題演習		
	10	政治(日本国憲法)	日本国憲法		
		政治(人権思想の歴史)	人権思想の歴史		
	11	政治(日本の政治)	日本の政治		
		政治(国際政治)	国際政治		
	12	経済(経済のしくみ)	経済のしくみ		
		経済(日本の経済史)	日本の経済史		
	13	経済(国際経済)	国際経済		
		経済(経済学の原理)	経済学の原理		
	14	問題演習	問題演習		
		社会(社会保障・時事問題)	社会保障・時事問題		
	15	社会(労働問題・時事問題)	労働問題・時事問題		
		社会(国際問題・時事問題)	国際問題・時事問題		
履修上の留意点					
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。					

授業計画(シラバス)

科目名	災害概論				指導担当者名	藁谷 暢	
実務経験	医師					EMT経験:	有
開講時期	後期			対象学科学年		救急救命士科1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	・多数傷病者の特異性を理解する。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D(不合格)						
使用教材	標準多数傷病者対応MCLSテキスト、救急救命士標準テキスト改訂第11版						
授業外学習の方法	テキストを使用した問題演習						
学期	ターム	項 目		内容・準備資料等			
授業計画 後期	1	災害の概念		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	2	災害の概念		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	3	特殊災害		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	4	特殊災害		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	5	シミュレーション		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	6	シミュレーション		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	7	多数傷病者対応、トリアージ		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	8	多数傷病者対応、トリアージ		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	9	シミュレーション		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	10	シミュレーション		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	11	大規模災害		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	12	大規模災害		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	13	シミュレーション		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	14	シミュレーション		改訂第11版救急救命士標準テキスト・MCLS標準テキストに準拠			
	15	まとめ		まとめ			
履修上の留意点							
・授業の3分の2以上の出席がない者には、単位を認定しない。 ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。							